

新任医師と診療科の紹介(1) 血管外科

い で つ あ き ひ と
外科 (血管外科) 診療部長 出津 明仁

平成 24 年 4 月から当院において血管外科診療を再開しました。質の高い医療を提供することで、地域医療に貢献できるよう努力いたします。

【スタッフ】

外科全体のスタッフは、常勤医 9 人で診療に当たっています。私自身は、名古屋大学、愛知県立循環器呼吸器病センター、一宮市立市民病院で 5 年間血管外科診療にあたってきました。

【血管外科に関連した資格取得状況】

日本外科学会専門医、日本心臓血管外科学会専門医、脈管専門医、血管内治療医、腹部大動脈瘤ステントグラフト実施医、血管内レーザー 焼灼 術実施医

【血管外科診療】

血管外科は、頭部や心臓を除く全ての血管を対象としています。代表的な疾患としては、

①腹部大動脈瘤、②閉塞性動脈硬化症、③下肢 静脈瘤があります。

血管外科分野においてはカテーテル治療の役割が増えており、患者さんの身体的な負担軽減に貢献しています。

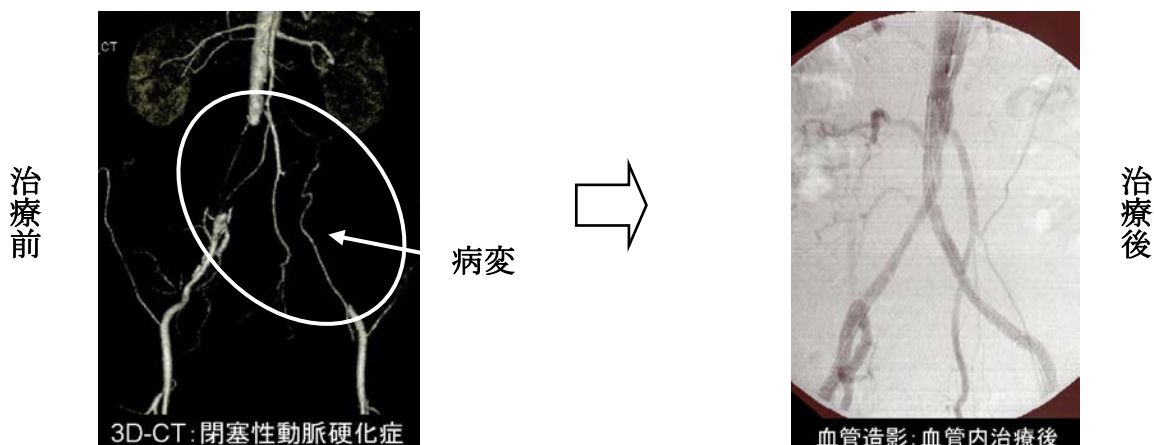
【下肢静脈瘤について】

下肢静脈瘤は、下肢の表面の静脈が「こぶ」状に拡張したものです。症状は、醜形、足のだるさ、こむら返りなどのほか、下腿 の色素沈着や潰瘍 (皮膚がえぐれる) などの皮膚症状があります。治療は、圧迫療法 (ストッキングや包帯を使用)、硬化療法 (静脈瘤を硬化剤注射で固める)、手術治療 (ストリッピング)、レーザー治療などがあります。どの治療法がよいかは患者さんごとに異なりますので、下肢静脈瘤が気になる方は一度血管外科を受診してみてください。

【閉塞性動脈硬化症について】

閉塞性動脈硬化症は、主に下肢の動脈に狭窄、閉塞を起こすものであり、下肢の血行障害が生じます。自覚症状としては、足の冷たさ、しびれ、歩行時の痛み、安静時の痛み、足の壊死、潰瘍などです。50 歳以上の男性、脳血管障害・冠動脈疾患合併、高血圧、高脂血症、糖尿病、喫煙などが危険因子といわれています。症状はご本人の活動性により異なります。血圧測定だけでも血行障害の有無は評価可能ですので、心配な方は一度検査を受けてみては如何でしょうか。治療法としては、運動、薬物療法、血管内治療、バイパス手術などがあります。

(※写真：大動脈から腸骨動脈の完全閉塞症例に対する血管内治療)



その他、腹部大動脈瘤、末梢動脈瘤、急性動脈閉塞症、透析用シャント手術、頸動脈狭窄症などの手術治療も行います。